

前橋市の野鳥

～ 平成 31 年度 前橋市自然環境調査（鳥類） 概要版～



令和 2 年 3 月
前橋市

調査の目的

前橋市は、赤城山麓に代表される豊かな森林、利根川や広瀬川をはじめとする大小多数の河川、農地や公園などの自然的な空間など、様々な環境をもつ美しい緑豊かなまちです。

しかし、私たち人間の生活様式の変化などにより、植物や動物が生育・生息する環境は失われつつあり、昔は当たり前に見られた生き物は見られなくなり、逆に昔はいなかった生き物が新たに出現するなどの変化が出ています。

市内の生き物の調査を継続し、情報を蓄積することで、人間の目からだけではなく、これらの環境の中で実際に生活している『生き物の視点』から環境の変化を捉えることができます。

本市では、その取り組みの一つとして、市内で見られる動植物（植物、鳥類、哺乳類・は虫類・両生類、魚類・水生生物、昆虫類）を一斉調査する「自然環境基礎調査」（以下、基礎調査）を平成9,10年度に行い、その後定期的に、調査対象ごとの追跡調査を続けています。平成31年度は「鳥類」を対象に調査を行いました。

これからも、私たちが受け継いできた豊かな自然を大切にしていきたいと思います。

調査の概要

平成31年度は「鳥類」を対象に、専門家による調査を行いました。

調査項目	調査実施日	調査地点	調査方法
鳥類	①令和元年6月1日～6月7日（繁殖期）	市内の 14地点 ^注	ライン センサス法
	②令和元年12月17日～12月22日（越冬期）		

注）調査地点の位置は、2ページの図をご覧ください。

鳥の調査とは？

前橋市の「自然環境調査（鳥類）」では、「ラインセンサス法」による調査を実施しています。

「ラインセンサス法」とは、あらかじめ設定した調査ルートを、一定の速さで歩きながら、鳥の鳴き声や双眼鏡による確認で、ルートの左右25m以内で出現した鳥類の種類や個体数などを記録する調査方法です。その地域の鳥類と個体数を定量的に把握することができます。通常、鳥類が盛んに鳴き交わす夜明け頃から調査を開始します。

このほか、生態系の頂点とされる猛禽類（肉食の鳥類）の調査でよく行われる「定点観察法」や、様々な環境を回りながら任意に観察を行う「任意観察法」などがあります。正式な調査でなくても、写真や観察の日時がはっきりしていれば、本市にとっての貴重な確認例になることもあります。

鳥の観察などをする機会がありましたら、参考にしてください！！

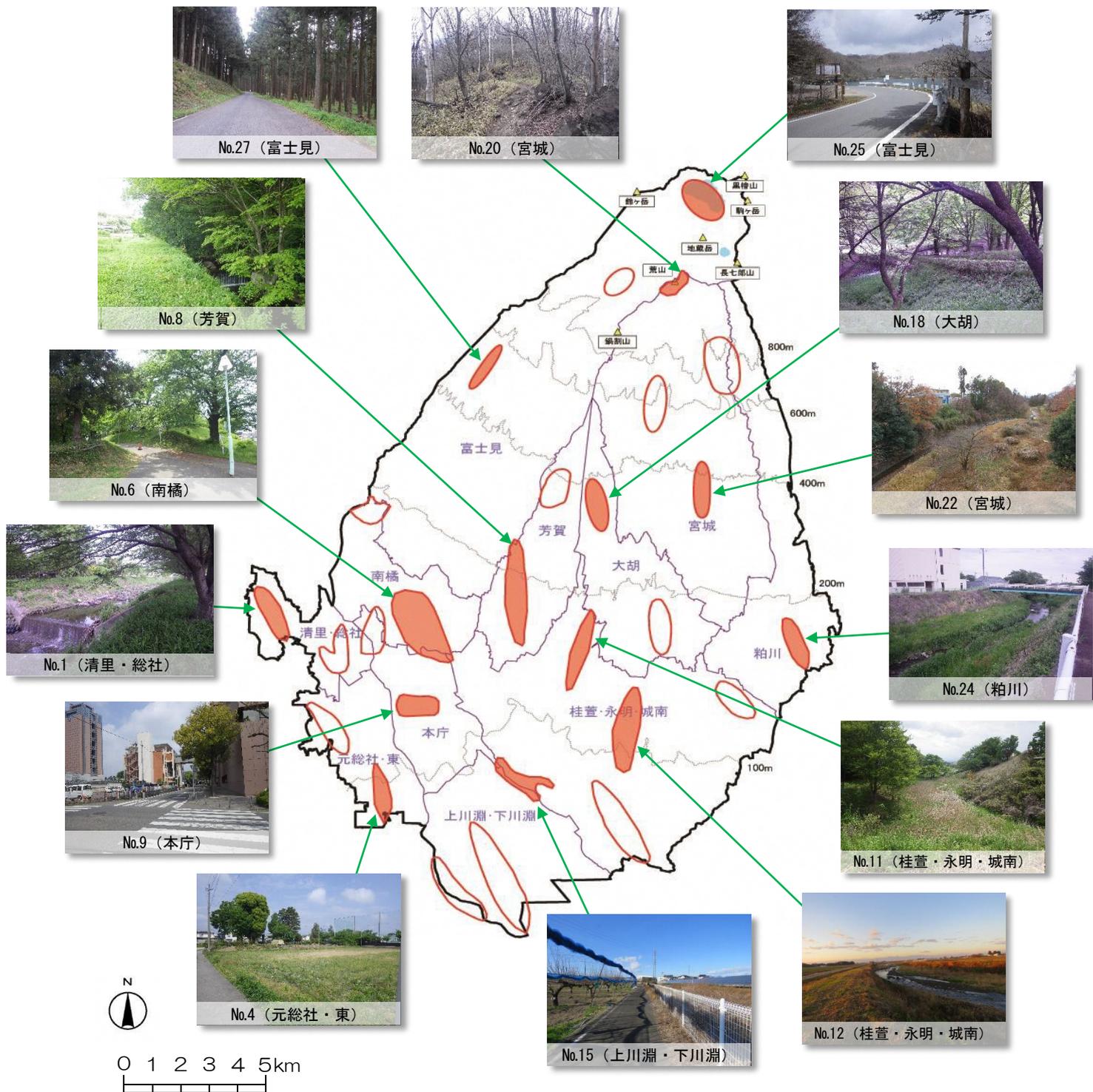


※表紙の写真：（左上）ノスリ、（左下）コゲラ、（右）エナガ

調査地点とその環境

本市は、北部に位置する赤城山の山頂から、中央部から南部にかけて広がる平坦な土地まで、緩やかに傾斜しており、その中に、森林、河川、池・沼、水田、畑、住宅地など、さまざまな環境をもっています。

今回の調査では、基礎調査で設定した 27 地点の中から、14 地点を選び、調査を行いました。なお、1 地点を除いた 13 地点は基礎調査を実施して以来、初めての追跡調査となります。



- : 本年度調査地
- : 過年度調査地

調査地点の位置

調査結果

平成31年度の調査の結果、繁殖期（初夏）34科58種、越冬期（冬季）30科68種、合計で36科79種の鳥類を確認しました。

確認種は、本市の環境を反映し、ジュウイチやハイタカなどの樹林に生息する種、ウグイスやホオジロなどの林縁周辺に生息する種、キジやヒバリなどの草地や耕作地に生息する種、バンやカワセミなどの水辺に生息する種、ツバメやスズメなどの人家周辺に生息する種などが見られました。この他、外来生物であるコジュケイやカオジロガビチョウも確認されました。

確認種数が多かった地点は、No.18（大胡）の39種、No.1（清里・総社）の34種などでした。これらの地点は、河川、池・沼、樹林、草地など多様な環境が、良好な状態で残されていると考えられます。



ジュウイチ



ホオジロ



キジ



カルガモ



スズメ

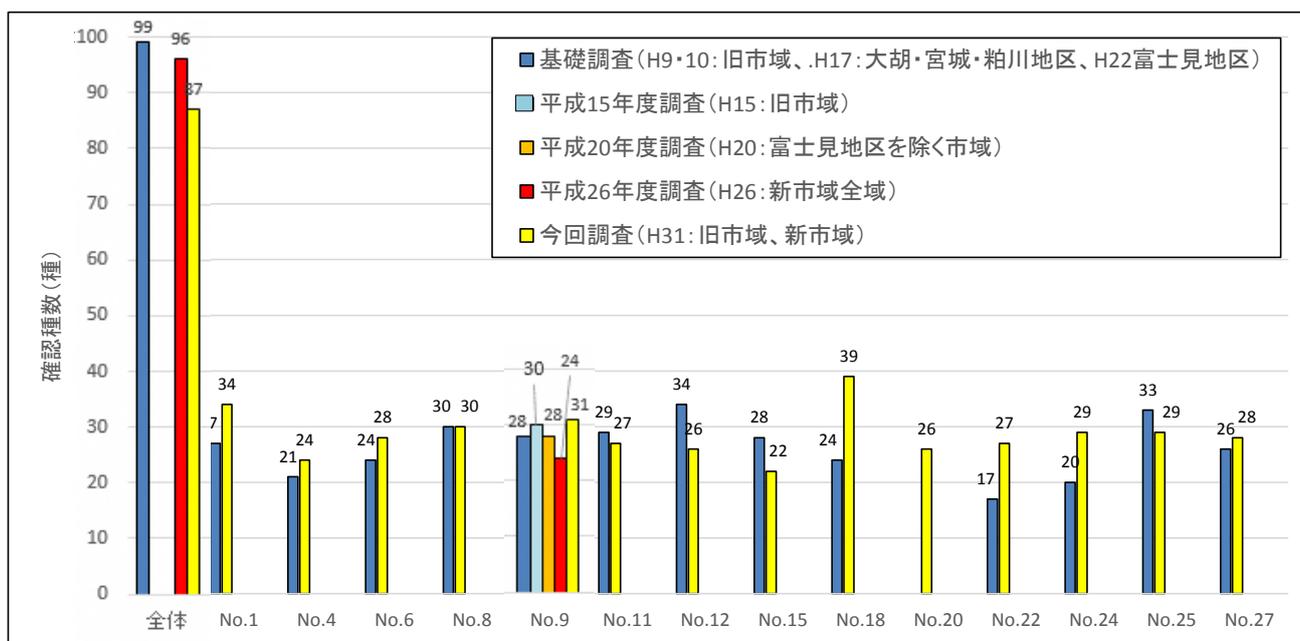


カオジロガビチョウ

「カワウ」というウの仲間は、基礎調査（平成9・10年度実施）で確認されて以来、継続的に確認されていて、海や川など多様な水域で潜水して魚を採ります。一時は大きく減少したカワウですが、最近では個体数が増加し、日本各地で漁業被害が問題となっています。一方、カワウと餌資源が競合するコサギというサギの仲間は近年、日本各地で確認数の減少が報告されています。前橋市でも平成15年度の調査で確認されて以来確認されておらず、今回調査でもコサギの姿を確認することはできませんでした。

今回調査した14地点で、確認個体数が上位10種となった種は、上から順に、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシブトガラス、カワラヒワ、カワラバト、カオジロガビチョウ、ホオジロ、ツバメ、ハシボソガラスでした。いずれも人家周辺の街路樹や耕作地、公園などで普通に見られる種です。みなさんの周りでも、これらの野鳥に出会うことができるかもしれませんね。

過去の確認種数と比較すると、13地点が基礎調査から約20年が経過していることもあり、多少の変化が見られました。微増している調査地点が多く、地点別にみると、特にNo.18とNo.22、No.24は確認種数が大きく増えています。これは基礎調査が初夏・秋季のみで、冬鳥の確認に適した冬季調査が行われていないためです。このため、この3地点では、今回調査の種数が多くなっています。一方、市街地が増えることで水田などの湿地を好む鳥が減少したり、樹林の伐採により樹林を好む鳥が減少したりするなどの変化が出てきています。



確認種数の変化

クイズ「この鳥はいつ頃から見られる？」

動物は、それぞれの生活に適した環境に生息していますが、鳥類もれいがいではありません。鳥の出現状況の変化は、季節の移り変わりを教えてくれるバロメーターにもなっているのです。

さて、右の写真の3種（オオヨシキリ、ジョウビタキ、コガモ）が前橋市で見られる季節として正しい組み合わせはどれでしょうか？

線で結んでお答えください。

※答えは、次のページにあります。



オオヨシキリ



ジョウビタキ



コガモ

夏頃～

冬頃～

希少な種の確認状況

ここでいう希少な種とは、国（環境省）や群馬県が選んだ「絶滅のおそれのある鳥類」を指します。これらの種は開発や樹林の伐採、生息環境の変化により数が減少し、絶滅が心配されています。希少な種がいるということは、その鳥が暮らせる環境が残されていることを示しています。

今回の調査では、オオバン、カッコウ、ジュウイチ、ハイタカ、オオタカ、キバシリ、コサメビタキの7種が確認されました。

希少な種の確認状況

No.	科名	種名	清里・総社	元総社・東	南橘	芳賀	本庁	桂萱・永明・城南	上川淵・下川淵	大胡	宮城	粕川	富士見	重要種選定基準				
			1	4	6	8	9	11	12	15	18	20	22	24	25	27	環境省	群馬県
1	クイナ	オオバン						○		○						NT		
2	カッコウ	カッコウ									◎					NT		
3		ジュウイチ									◎					NT		
4	タカ	ハイタカ					○									NT		
5		オオタカ	○		○				◎							NT		
6	キバシリ	キバシリ									◎					DD		
7	ヒタキ	コサメビタキ											◎			DD		
合計	5科	7種	1種	—	1種	—	—	1種	1種	1種	1種	3種	—	—	1種	—	2種	7種

注1) 種の分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、2012年)に従いました。

注2) 重要種選定基準

- ・「文化財保護法」及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)に該当する種は、確認されませんでした。
- ・環境省RL(H24.8):「環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」(第4次レッドリストの公表について)
NT: 準絶滅危惧
- ・群馬県RDB(H24.12):「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2012年改訂版)」(群馬県、平成24年12月)
NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

注3) 表中の記号凡例

◎: 繁殖期のみ確認 ○: 越冬期のみ確認

注4) 調査時間外・調査範囲外で確認した種を含みます。



クイズ「この鳥はいつ頃から見られる？」

正解は……

	◆オオヨシキリ⇒夏鳥	◆ジョウビタキ⇒冬鳥	◆コガモ⇒冬鳥
生態	オオヨシキリは、おもに昆虫を食べます。ヨシ原のヨシの茎に、ヨシやオギの穂や枯草を用いたカップ状の巣をつくり、オスはギョギョシ・・・と盛んにさえずり、縄張り宣言をします。 4月中旬～6月初旬までに九州より北に飛来し、8月頃から南へ帰ります。	ジョウビタキは、昆虫や木の実を食べ、平地や山林の明るく開けた環境に生息しています。越冬期は雌雄別々に縄張りを構えて生活し、日本各地で繁殖が定着化しつつあります。オスは、胸のオレンジ色がとても綺麗です。 10月頃日本全国に渡来し、4月上旬頃から北へ帰ります。	コガモは、水面から届く範囲の藻や水草を主に夜間に食べ、水辺(湖沼、池、河川、干潟)の中でも、特に淡水域に多く生息しています。日本で最も小さいカモの仲間です。 9月頃～11月上旬頃までに日本全国に飛来し、翌年4月頃から北へ帰ります。

※夏鳥: 日本で繁殖する為、春～初夏に南からやってきて、秋に帰る鳥
冬鳥: 日本で越冬する為、秋～初冬に北からやってきて、春に帰る鳥

・・・みんな、住みやすい環境での生活を選択しているんだね♪

外来種の確認状況

ここでいう「外来種」とは、人間の活動によって、外国から入ってきた生き物を指します。

今回の調査では、コジュケイ、カワラバト、ホンセイインコ、ガビチョウ、カオジロガビチョウの5種が確認されました。

このうち、「ガビチョウ」と「カオジロガビチョウ」は、外来生物法という法律で「特定外来生物」（生態系や、農林水産業などに被害をおよぼす恐れがあるため、飼育や輸入、野外への放出などを禁止する種）に指定されています。ガビチョウは、前回調査（平成26年度実施）が初めての記録でしたが、今回の調査でも継続して確認されました。また、カオジロガビチョウは、基礎調査（平成9・10年度実施）の確認地点数が3地点だったのに対し、今回の調査では8地点に増加しており、外来種の確認範囲が徐々に増えていることがわかりました。調査を継続することで、こんなこともわかるんですね。

外来種の確認状況

No.	科名	種名	調査地点														外来種選定基準 ^{注2}		
			清里・総社	元総社・東	南橋	芳賀	本庁	桂萱・永明・城南	上川淵・下川淵	大胡	宮城	粕川	富士見	外来生物法	外来種リスト	外来種ハンドブック			
			1	4	6	8	9	11	12	15	18	20	22	24	25	27			
1	キジ	コジュケイ	●			●		◎						○					○
2	ハト	カワラバト	○	●	●	●	●	○	●	◎				○					○
3	インコ	ホンセイインコ		○															○
4	チドリ	ガビチョウ										◎		◎					○
5		カオジロガビチョウ	●		●	●		●	●		●		●	●					○
合計	4科	5種	3種	2種	2種	3種	1種	3種	2種	1種	2種	—	3種	3種	—	1種	2種	4種	5種

注1) 種の分類及び配列は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、2012年）に従いました。

注2) 外来種選定基準

- ・外来生物法：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）（平成16年 法律第78号）
（特定外来生物等一覧：2014年8月1日更新）

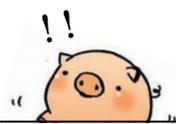
特定：特定外来生物

- ・外来生物リスト：「我が国に定着している外来生物のリスト（暫定版）」（平成18年、特定外来生物等専門家会合（第7回）資料）
- ・外来種ハンドブック：「外来種ハンドブック」（日本生態学会編集、平成14年、地人書館）

※なお、外来生物法では、明治時代以降の移入種を対象としています。

◎：繁殖期のみ確認 ○：越冬期のみ確認 ●：2期で確認

注3) 調査時間外・調査範囲外で確認した種を含みます。



身近なカワラバトって実は・・・？～外来種とは～

私たちの日常でよく見かけるカワラバト（別名：ドバト）。**実は、外来種なんです。**カワラバトは大和、飛鳥時代からレース鳩や伝書鳩として持ち込まれました。明治以降に野生化し、約100年もの間、ずっと日本に定着しています。カワラバトは食害や糞害、病原体の媒介、交通機関との衝突事故などが問題となっています。

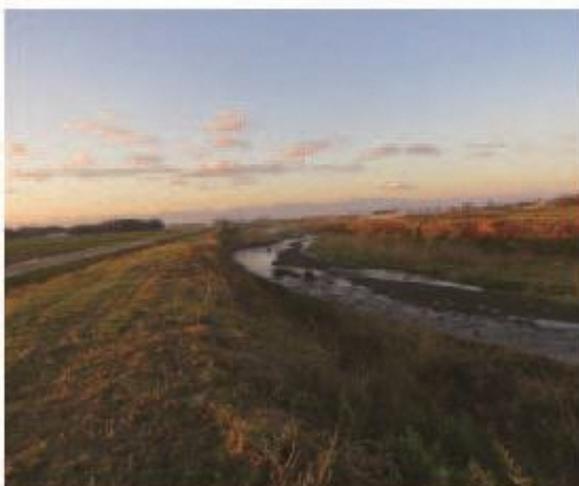
外来種とは、「人間の活動に伴い、本来の生息地域外に入り込んだ生物たち。本来、日本の生態系に含まれない生物。」とされていて、普段は悪者として扱われることの多い彼らですが、在来種に負けず日本に定着できたのにはワケがあります。

例えばカワラバトは、体は重そうだし、見た目上は飛ぶのは得意でなさそうです。しかし、彼らには優秀な「帰巢能力」があり、昔から伝書鳩として人々に利用されてきました。その帰巢能力を支えるのは優秀な方向判定と位置測定的能力です。なんとカワラバトはその能力で、1000kmも離れた場所からでも、もとの場所に帰ってくる事ができるのです。また、「ハト」は、ピジョンミルクという、たんぱく質や脂肪が多く含まれたえさを作り出すことができます。これはえさの少ない時期にも子供を産むことができ、一年中繁殖が可能であることを意味します。こういった能力が、日本で定着することができた理由のひとつになります。

この他にも様々な能力を持つ外来種を、人が持ち込んでしまったことで、私たちの生活や日本古来の生きものの生態系に大きな影響を与えてしまっているんですね。



※裏表紙の写真：（左上）クサシギ、（右）カイツブリ、（右下）セグロセキレイ



前橋市役所 環境部環境政策課
〒371-8601 群馬県前橋市大手町二丁目 12 番 1 号
TEL : 027-224-1111

※写真・イラストの無断転用を禁止します。
この報告書は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。